

アメリカにおけるIPEDSの 大学データの収集・公開政策

柳浦 猛
Postdoctoral Scholar
Stanford University

自己紹介

アメリカ高等教育機関で政策・大学運営（IR）に
15年以上関わってきた

- State Higher Education Executive Officers, Data Analyst
- Tennessee Higher Education Commission, Research Director
- University of the District of Columbia – Community College,
Institutional Research Analysis
- Postsecondary Analytics, LLC

コロンビア大学（Teachers College）で教育経済
学でPh.D.を取得（2020）、現在はスタンフ
ォード大学ビジネススクールでポスドク

IPEDSとは

Integrated Postsecondary Education Data System (IPEDS) の略称

アメリカ連邦政府教育省 (U.S. Department of Education) の傘下機関である National Center for Education Statistics (NCES) の管轄

- 教育に関わるデータ収集、報告、管理、公開を担当する
- 政策分析を行うことは禁じられている

アメリカの大学は機関レベルのデータを IPEDS に提出する義務を負う

- その対価として、大学は連邦奨学金制度の参加を許可される (Title IV Institution)
- IPEDS に参加しない大学に通う学生は、連邦政府奨学金受給資格を失う

URL: <https://nces.ed.gov/ipeds/>

データ提出・公表サイクル

- アメリカの大学は年3回、合計12調査に対してデータを提出
- 提出されたデータは、約1年ー1年半以内に一般公開される

IPEDS 2020-21 data collection schedule				
2020-21	Registration	Fall 6 weeks	Winter 9 weeks	Spring 17 weeks
Collection Opens	August 5	September 2	December 9	December 9
Collection Closes for Keyholders	Register by August 26	October 14	February 10	April 7
Collection Closes for Coordinators	Register by August 26	October 28	February 24	April 21
Components included	Registration; Report Mapping; Institution ID; IC-Header	Institutional Characteristics; Completions; 12-month Enrollment	Student Financial Aid; Graduation Rates; 200% Graduation Rates; Admissions; Outcome Measures	Fall Enrollment; Finance; Human Resources; Academic Libraries
Provisional Data available in the IPEDS Data Center*		Early summer	Early fall	Mid-fall

* Release dates are approximate.

IPEDSの データ活用

基本的にIPEDS
に提出される
データは州立
、私立問わず
全て一般公開
される

1980年から機関レベルのデータが世界中誰でもアクセス可能

ローデータ(Raw Data)の一般公開

アメリカの納
税者の意識

納税者は税金がどのように使われているか知る権利を持つ

消費者(学生
・親)重視の
文化

消費者を守ることが市場経済が機能するために重要

情報の非対称性の解消：情報の不公平さは、市場の質の低下を招く(例：Akerlof, 1970)

アメリカの格
差社会

情報の非対称性は、低所得者層をより不利に立場に置くため、格差の拡大に繋がる可能性がある

IPEDSのデ ータ使い方

実務・研究者用

<https://nces.ed.gov/ipeds/>

一般用

<https://nces.ed.gov/collegenavigator/>

IPEDSの 課題

機関レベルのデータの限界

- 政策評価のための個人データ需要増加

専攻レベルのデータがない

- 学生は専攻で進学先を決める

卒業後のデータがない

- NCESは保持していない
- 学生・親にとって最大重要関心アウトカム

使い勝手が良くない

- データの氾濫

COLLEGE SCORECARDS

オバマ政権下で公開、現在に至る

- IPEDSだけでなく、IRS（国税局）及びFAFSA（連邦奨学金）の個人データを組み合わせて、縦割り行政の弊害を乗り越えて構築される

学費、卒業率、卒業後の収入など、学生・親にとって重要な情報の提供に焦点を当てている

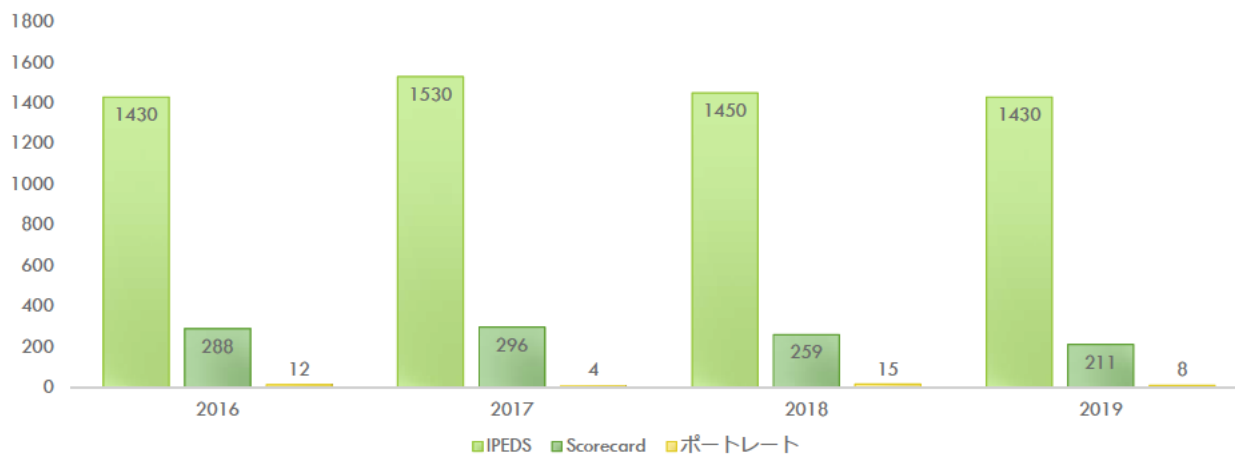
- データの公開だけでなく、分かりやすさ重視

研究者や政策関係者が使いやすいように、全てのデータがダウンロードできるようになっている

<https://collegescorecard.ed.gov/>

研究者によるIPEDS使用頻度

Google Scholarによる検索結果



IPEDSと 大学ポ ートレ ートの 違い

大学ポートレート

1. ローデータ (Raw Data)が一般公開されていない
2. 過去にデータが遡れない
3. 大学間比較が困難 (国公立大学のみ)
4. 学部レベルのデータが一部公開 (IPEDSは機関レベル)

提言

ローデータの一般公開

1. 情報の非対称性の解消：守るべきは大学か学生か
2. 実証研究の重要性の増加：データに基づいた知見の集積が今後さらに重要に

政策関係者・研究者が使いやすい形でデータを公開

1. CSVファイル
2. 過去に遡って全て一般公開

学生目線に立ったデータ公開

1. 学生にとって重要な情報は何かの議論



ご清聴ありがとうございました

連絡先

Takeshi Yanagiura

tyana@stanford.edu